

ドラッグに関連した健康被害とスティグマを最小限にする
ハーム・リダクション
—ニューサウスウェールズ州東部のニードル・シリンジ・プ
ログラム視察報告記

Harm reduction to minimise drug-related health harm and stigma among people who inject drugs in Australia – A Report on the Needle and Syringe Program in the Eastern Division of New South Wales

【キーワード】

ドラッグ関連健康被害, スティグマ, ニードル・シリンジ・プログラム, ハームリダクション, オーストラリア

drug-related health harm, stigma, NSP, harm reduction, Australia

【Correspondence】

小松容子
宮城大学看護学群
komatsuy@myu.ac.jp

【Support】

本視察報告は、宮城大学の国際交流・留学生センターのサポートおよび JSPS 科研費 JP19K11274 の助成を受けた。

【COI】

本論文に関して、開示すべき利益相反関係事項はない。

Received 2023.05.23

Accepted 2023.07.20

小松容子

Yoko Komatsu

宮城大学看護学群

School of Nursing, Miyagi University

Abstract

Evidence-based harm reduction services make positive changes among people who inject drugs. However, these sorts of services are not yet available in Japan. Little is known about the effectiveness of harm reduction programs in other countries. Therefore, it is necessary to seek insights into 'harm reduction' from a country such as Australia, where these services have been available for decades.

This paper aims to describe what outcomes define harm reduction and explore answers to the question, what services are available to minimise drug-related health harm and stigma among people who inject drugs in Australia?

Australian drug strategies and harm reduction services were investigated through a field trip to the Eastern Division of New South Wales, Australia, in 2023. The findings were cross-checked by reviewing articles directly related to Australian harm reduction services.

This paper overviews Australian drug strategies and then describes the Needle and Syringe Program in New South Wales. This is followed by an outline of how culturally safe and trauma-informed care builds safe and healthy communities. Furthermore, the paper describes the stigma amongst injecting drug users and how a peer support group contributes to reducing social stigma. As a newly added service, the paper provides information about a national Take Home Naloxone program which started in July 2022.

はじめに

違法薬物への対策や取り組みは国によって異なっている。例えば、大麻を合法化している国や州があれば、違法としている国や州がある。日本の場合は、薬物乱用防止のもとに、違法薬物を取り締まるほか、薬物依存症のための治療も行われているところである。このような中、昨今わが国で注目されるようになったのは、ハーム・リダクションというアプローチである[1]。これは、違法薬物を取り締まることよりも、違法薬物を使用する上での有害となるような行動や健康被害などを減らすことを重視した考え方に基づくものである[2]。たとえば、ドラッグユーザー間で、C型肝炎ウイルスやHIVへの感染が生じている場合には、他者が利用した注射器を別の誰かが再利用するなどの感染リスクの高い行動をとらないように、新しい清潔な注射器を提供し、使用した注射器を回収する等の対策（ニードル・シリンジ・プログラム）が、ハーム・リダクションの一つである[3]。このようなニードル・シリンジ・プログラムは、エビデンス・ベースト・アプローチであり、WHOではその展開についての指針を示している[4]。ニードル・シリンジ・プログラムが実施されている国は、2022年現在で92か国あり、2020年から比べると8か国増えている[5]。世界的にその展開が拡大しているニードル・シリンジ・プログラムをはじめとした薬物に関連したハーム・リダクションは、日本ではまだ施策化されておらず、実践例も報告されていない。わが国の進捗状況は、ハーム・リダクションに関心が寄せられ、政策化に向けた模索が始まった段階といえる[6]。現段階での懸念事項は、なんとなく好意的に受け止められ、ハーム・リダクションという言葉だけが一人歩きし、実態がよくわからないまま臨床へ導入されてしまわないか、ということである[1]。そのために、ハーム・リダクションとは実際にどのようなアプローチなのか、どのようにニードル・シリンジ・プログラムが展開されているのか等、その実態を把握することは、わが国でのハーム・リダクションの展開を検討する上で重要なことと考えられる。本稿では、ニードル・シリンジ・プログラムをはじめとしたハーム・リダクションが展開されているオーストラリアのニューサウスウェールズ州東部での実際について報告する。

オーストラリアにおけるドラッグ対策

1. オーストラリアのドラッグ・ストラテジー

オーストラリアにおけるドラッグ対策(**Drug strategy**)の対象になっているドラッグとは、酒、たばこ、違法薬物等であり、これらはオーストラリアの地域社会、個人と家族に直接的にも間接的にも影響を及ぼすドラッグとされている[3]。そして、これらのドラッグによって、例えば、健康を害したり、差別を受けたり、仕事を失ったり、ホームレスになったり、貧困や家庭崩壊を招くといった、個人とその家族や地域社会の健康・文化・経済への悪影響を害(**harm**)としている。オーストラリアのドラッグ対策では、「サプライ・リダクション(供給低減)」「デマンド・リダクション(需要低減)」「ハーム・リダクション(被害低減)」の3本柱で、ドラッグによって生じる害を予防または最小限にし、安全で健全かつレジリエントな地域社会の確立を目指している[3]。本稿で着目するのは、これらの3本柱の1つであるハーム・リダクションである。

2. オーストラリアにおけるハーム・リダクション

先述の通り、ドラッグを使用することによって生じるとされている悪影響は、ドラッグユーザー個人のみならず、その家族や友人、ひいては地域社会にもおよぶ。表1に示したのは、ドラッグ・ストラテジー・レポート[3]に示されているドラッグによる悪影響である。このように、個人や家族の健康への悪影響や、地域社会と経済への打撃については既に整理されているところであり、ドラッグ対策の一つである「ハーム・リダクション(被害低減)」では、ドラッグ使用の際のより安全な行動を推奨し、予防できるリスク要因を低減し、ドラッグユーザーの人々の健康とその人々を取り巻く地域社会への被害を低減させることを目指している[3]。

表1 ドラッグによる悪影響

健康への悪影響	社会への悪影響	経済への悪影響
<ul style="list-style-type: none"> ▪ がん、心筋梗塞、肝硬変などの慢性疾患 ▪ 外傷 ▪ 精神疾患 ▪ 交通事故 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 暴力や犯罪 ▪ 配偶者間・家庭内の暴力 ▪ 複数の法に触れる行為 ▪ 子どもにとって不健全またはトラウマとなる環境 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 医療費と法規制や取締りに係る費用への影響 ▪ 生産性の低下 ▪ 経済状況による犯罪行動への結びつき

(ドラッグ・ストラテジー・レポート[3],pp4-5に基づき筆者作成)

3. ハーム・リダクションの普及について

ハーム・リダクションという言葉は、日本では薬物・物質依存に関連する専門職の間で注目されるようになってきたが、一般には未だなじみのない言葉である。一方、この言葉がもともと英語であることもあり、英語圏ではこの用語について知らない人は少なく、一般の人でもハーム・リダクションについて知っているようである[1]。また、アルコール・薬物使用に関する治療やサービスの看板は、日本では表立ったところで見ることがあまりないが、ニューサウスウェールズ州では、病院の近くに「ハーム・リダクション・サービス(Harm Reduction Service)」と大きな看板が立てられており、分かりやすく誰にでも目に入る位置に示されていた(写真1)。



写真1 ハーム・リダクション・サービスの看板(撮影 筆者 2023.3.23)

ハーム・リダクションという用語が、日本では現在カタカナ表記で使われていることもあり、外国の考え方あるいはアプローチの仕方が、日本の社会に馴染むのだろうかや疑問視されるかもしれないが、実は、わが国でも、ハーム・リダクションの施策は日常の中に既に溶け込んでいるものがある。たとえば、飲酒運転の禁止がある。飲酒を禁止するのではなく、飲酒時の運転を禁止し、交通事故のリスクを低減させる取り組みがその一つである。そして、たばこについても、喫煙を禁止するのではなく、禁煙場所を設けることで、受動喫煙を防ぎ、喫煙する人の周囲にいる人々への健康被害を低減させる取り組みがこれにあたる。

しかし、注射器を使った薬物使用についてのハーム・リダクションは、日本では実施されておらず、想像も難しいところである。そのため、注射器使用を伴う薬物使用ケースのためのハーム・リダクションについて次から詳しく紹介していく。

ニューサウスウェールズ州のニードル・シリンジ・プログラム

1. ニードル・シリンジ・プログラムとは

先に示した写真1にあるハーム・リダクション・サービスの横に書かれている「NSP」とは、ニードル・シリンジ・プログラム Needle Syringe Program の略である。このニードル・シリンジ・プログラムは、ハーム・リダクション・サービスの一部であり、「注射針とシリンジの配布」、「地域社会における使用済み注射針の回収」、「宅配サービスと訪問支援」、「電話相談」、「情報提供と教育・研修」などのサービスが提供されている[7]。この保健サービスの目標は、「ドラッグを打つ人々 People Who Inject Drugs (PWID)」の間での血液媒介性のウィルス感染を減らすことであり、感染のリスクを引き起こすような行動を最小限にすることが主な目的である。

ニードル・シリンジ・プログラムを主要サービスとしている機関は、オーストラリア全土で 800

か所あり、このうち 525 か所はニューサウスウェールズ州にある。そして、注射針とシリンジの配布数は、年間 3000 万本と報告されている [8, 9]。

2. 地域の中にあるニードル・シリンジ・プログラム

写真 2 は、ニューサウスウェールズ北東部に位置する基幹病院の建物の横に設置されている「フィットパック（注射器などの一式）」配布機と使用済み注射器等の回収ボックスである。筆者がこの存在に気が付いたのは、この病院への 3 回目の訪問時である。つまり、1 回目と 2 回目の訪問時には、気づかずに素通りしていたということである。すなわち、それくらい、地域あるいは病院の風景に溶け込んで設置されていた。筆者は当初、これ（写真 2）が何であるのか分からなかった。「フィットパック配布機 Fit Pack Dispenser」と張り紙がされていたので、入院や急な手術の際に必要な入院セットの自動販売機と思い、気に留まらなかった。しかし、ふとボタン部分を見ると、「5ml パック」「1ml パック」「廃棄瓶 Disposal Bin」と表示されており（写真 3）、訝しく感じ、少なくとも入院セットではないことによりやく気づき始めたというわけである。



写真 2 フィットパック配布機と回収ボックス



写真 3 フィットパック 2 種類と廃棄瓶の提供

（撮影 筆者 2023.3.22）

3. フィットパック Fit Pack の無料配布と匿名での受け取り

フィットパック配布機のハンドルの横には、「フィットパックを受け取るためには、ハンドルを引き、下の受け取り口で、ボタンと音がするまで、前方に回し上げる」と書かれている（写真 4）。コイン投入口はどこにもない。つまり無料で配布されていることが分かる。フィットパックは、登録承認を受けている薬局や保健センター等で取り扱われており、ニューサウスウェールズ州の薬局におけるニードル・シリンジ・プログラムマニュアルには、フィットパックは無料提供と記載されている [10]。薬局や保健センターのサービス提供時間外でも、夜中でも週末でも、しかも匿名でフィットパックを受け取れるシステムがフィットパック配布機である [11]。

フィットパックに含まれるものは、清潔な注射針とシリンジ、消毒用アルコール綿、スプーン、注射用水であり、注射器の容量は、5ml と 1ml と選択できるようになっている。



写真 4 フィットパック配布機（撮影 筆者 2023.3.22）

4. 使用済み注射器の回収について

フィットパックの配布と同時に使用済み注射器等の回収についても考えなければいけない。この点について、ニューサウスウェールズ州の薬局マニュアルによると、フィットパックを配布する際、初回以外は、使用済みのものと交換で、新しいフィットパックを提供することになっている[10]。フィットパック配布機でも、「廃棄瓶」を受け取れるようになっており、使用済みのものを回収するための大型の回収ボックスも、フィットパック配布機の横に設置されている（写真5）。横幅、奥行き、高さともに、十分な容量のある回収ボックスである。



写真5 大型の回収ボックス（撮影 筆者 2023.3.22）

その他にも地域社会の中に、回収ボックスが設置されている。例えば、大学のトイレの中などに、さりげなく設置されている（写真6）。そのために、トイレは何度か利用したが、その存在を教えてもらうまで、筆者は全く気がつかなかった。写真6は、ある大学のトイレの中にある手洗い場周辺の風景である。手を拭くためのペーパータオルが設置されていて、その下には、ゴミ箱がある。そして、ペーパータオルの左横には、生理用品の自動販売機が設置されていて、自然な風景である。反対側には、小型のボックスが設置されており、筆者は、これが何であるのか分からなかったが、風景の中に溶け込んでいるため違和感を覚え、全く気にも留めなかった。あたかも壁に設置されている手指消毒剤のようにも見受けられる。しかし、それが回収ボックスであることを後に教えてもらい、よく見ると「使用済み注射針入れ Needle and Sharps Disposal Unit」と記されていた（写真7）。筆者が最も驚いたのは、この回収ボックスが、看護学や薬学を履修している学生がいる校舎のトイレに設置されていたことである。この驚きは、後述する、ドラッグユーザーに対する偏見やステレオタイプなイメージが、筆者にもあったということだと言えよう。



写真6 大学の女子トイレに設置されている回収ボックス



写真7 小型の回収ボックス

（撮影 筆者 2023.3.24）

注射器使用のドラッグユーザーに関するスティグマへの対応

1. スティグマ最小化への取り組み

ドラッグユーザーに関しては、健康被害を最小化することだけでなく、スティグマ（偏見）を最小限にすることも、ハームリダクションにおいて取り組むべきことの一つになっている。「ドラッグを打つ人々 People Who Inject Drugs (PWID)」と訳すとその言葉の響きからスティグマを増長させるかもしれないために、ここからは「注射器使用のドラッグユーザー」と日本語訳を改めたい。報告を進めていきたい。

注射器使用のドラッグユーザーについてステレオタイプの描写や挑発的な人たちというイメージが先行していると指摘されている[12]。これがスティグマであり、そのような勝手な思い込みから、注射器使用のドラッグユーザーに対して、否定的な態度を向けてしまうことが問題となっている。実際に挑発的な行動をしているのは、ドラッグユーザーのほんの一部であり[12]、注射器使用のドラッグユーザーの殆どは、社会的に機能し、社会における何らかの役割を果たしており、いわゆる「いい人」とも言われている[13]。嫌なことがあった時に酒を飲む人がいるように、辛い時や困難に陥った時に、ドラッグを使用することによって、なんとか辛さを乗り越えている人たちであり、人間関係で孤立感を抱いていることも少なくない[13]。

スティグマは、ドラッグユーザー個人への害になり、社会にとっても有害になる（Box 1 参照）。ドラッグユーザーは、抱えている苦しみやその苦しみから逃れるための対処としてのドラッグ使用について、相談をしたり支援を受けたいと思っても、スティグマゆえに、人に相談できず、支援を求めることも出来ない。このようにスティグマは、個人と社会に悪循環を招いている。

ドラッグユーザーに対するスティグマを持っているのは、医療従事者も例外ではない。注射器使用のドラッグユーザーの80%が、医療機関でスティグマを受けたと報告されている[12]。つまり、医療福祉専門職からのスティグマを受けているということである。このために、ニードル・シリンジ・プログラムのサービスの担い手となる医療従事者を対象にした研修会も開催されている[12, 14]。この研修会では、スティグマがいかにドラッグユーザーと地域社会にとって有害になっているのか等を理解し、事例検討を行いながら、態度・技術・知識の3側面からスティグマを克服できる医療従事者の育成を目指した内容となっている[14]。

Box1 注射器使用のドラッグユーザーについてのスティグマによって生じる害[13]

- ・ 家庭への影響（家族の中での孤立や家庭崩壊）
- ・ 周囲の人々や医療スタッフや警察などに、見た目や判断され軽蔑される（このように扱われることがドラッグユーザー自身の自己像に影響し、他者との付き合い方に影響を及ぼす）
- ・ 医療や保健サービスとのつながりが欠如する
- ・ 疾患があっても未治療のまま経過
- ・ 職場での差別や就職するうえでの差別を受ける
- ・ 依存症治療などを受けていることを打ち明けられず、常勤で働くことが難しくなる
- ・ 家族や地域社会からの批判を受ける

2. ドラッグユーザー個々の文化的背景とトラウマに配慮したケア

ドラッグユーザー個々の文化的背景とトラウマに配慮したケアは、ニードル・シリンジ・プログラムにおけるアプローチの中で重要視されている[7]。ニードル・シリンジ・プログラムを主要サービスとしている機関だけでなく、二次的にニードル・シリンジ・プログラムを提供している地域保健センター、救急外来、薬物依存治療センター、アボリジニ・コミュニティ・ヘルスセンターでも、文化的に安全でトラウマに配慮されたケアを提供すべきとされている[7]。このような配慮は、民間の支援団体でも大切にしている考え方である[14]。例えば、ニューサウスウェールズにあるドラッグとアルコールの多文化研修センター（DAMEC：Drug and Alcohol Multicultural Education Centre）では、多様な文化と言語が存在する地域におけるアルコール

とドラッグに関連した害を低減することをミッションとして掲げている[15]。

オーストラリアは、実に多様な文化が存在しており、人種、民族、文化、言語、国籍、性別、年齢、障害、学歴、社会階層によって、必要な情報が届かない・受け取れない、ことが生じないように配慮することが必要である。さらに、異なる文化と言語の人々におけるドラッグの使用は、即、個人と家族とコミュニティ（同様の文化と言語を持つ人々）へのスティグマにつながると指摘されており[14]、特別な配慮が必要である。難民としてオーストラリアへ避難してきた人もいれば、よりよい生活を求めてオーストラリアへ移住してきた人もいる。そのような人たちの中には、異なる文化と言語のために、オーストラリアでの生活の中で、日常的に辛い体験をしている場合もあるし、医療機関に行った際に嫌な思いをした人もいる。ドラッグを使用する以前から耐え難い体験があり、その上に、ドラッグを使用することによって、更なるスティグマが付与され、二重に傷ついている人たちも少なくない。そのために、ドラッグユーザーへの関わりにおいては、様々な文化的背景やこれまでのトラウマティックな体験に配慮したケアが必要であることを、ハームリダクションアプローチやニードル・シリンジ・プログラムでは強調している[7]。

ハームリダクションのためのその他のアプローチ

1. テイク・ホーム・ナロキソン

ナショナル・テイク・ホーム・ナロキソン・プログラム (the national Take Home Naloxone program) は、現地では THN (Take Home Naloxone) と略されていることもあり、本稿では以下「テイク・ホーム・ナロキソン」と言うようにする。これは、オピオイドの過剰摂取による健康被害に対処するために、オピオイド受容体拮抗作用のあるナロキソンを家に常備しておくことを推奨し、処方箋不要かつ無料での入手を可能とした施策であり[16]、パイロットスタディを経て[17]、2022年7月からスタートした比較的新しい取り組みである。

この背景として、オーストラリアにおける薬物の過剰摂取による死亡が、2017年に至るまで年々増加し問題となっていたことが考えられる[18]。2019年のデータでも、20代から40代の死因の上位はドラッグによるものである。そして、薬物の過剰摂取による死亡の74%は、意図せずして生じており、その内の54%はオピオイドによるものと報告されている[18]。薬物の過剰摂取による意図しない死亡事故について、オピオイドによる死亡が最も多い傾向は、14年間変わっておらず[18]、公衆衛生上の重要な課題の一つになっている。表2に示したように、オピオイド過剰摂取のリスクファクターや過剰摂取によって生じることは明らかにされており[19]、これらの情報を心理教育的なアプローチによって伝えることも、ハーム・リダクションの一側面を担っている。

表2 オピオイド過剰摂取のリスクファクターと過剰摂取の結果生じること

オピオイド過剰摂取のリスクファクター
<ul style="list-style-type: none"> ・オピオイドと他のドラッグ（アルコールやベンゾジアゼピン系の薬剤等）の併用 ・オピオイドの耐性が低下（断薬）した後でのオピオイドの再摂取 ・注射によるオピオイド摂取 ・通常量に比べて過量な摂取 ・他の健康問題（感染症、発熱、呼吸器や肝臓の疾患、老化）が生じている時 ・慣れない場（知らない取引相手、よく知らないドラッグ、知らない場所）での使用
オピオイド過剰摂取の結果生じること
<ul style="list-style-type: none"> ・死亡 ・脳へのダメージ ・筋と神経の機能障害（コンパートメント症候群） ・腎の機能障害（横紋筋融解症による） ・心理的トラウマ（体験者にとっても目撃者にとっても）

（資料[19]内“Risk factors for opioid OVERDOSE”, “Consequences of Overdose”に基づき筆者作成）

Miyagi University Research Journal

テイク・ホーム・ナロキソンは、オピオイド過剰摂取のリスクがある人やその知人や家族がこのサービスを受けることができる。ナロキソンは、最寄りの薬局で無料で受け取れるほか、薬物依存治療センターや、ニードル・シリンジ・プログラムなどでも無料で入手できる[16]。筆者が、このナロキソンプログラムを知ったのは、まさにニードル・シリンジ・プログラム経由であり、フィットバック配布機に貼られていた掲示物（写真7）に「ナロキソン NALOXONE」という文字を見つけ、それを手掛かりに調べたところ、たどり着いたというわけである。

なお、ナロキソン・プログラムに関する2枚のポスター（写真7）の内、左側のポスターで訴えていることは、オピオイドの過剰摂取による急性症状が生じても、慌てずに、落ち着いてナロキソンを使おうというメッセージである。そして右側のポスターに書かれていることは Box2 に日本語で示した。

写真7で興味深いのは、左側の「落ち着いてナロキソンをもっていよう Keep CALM and Carry Naroxon」の掲示である。「落ち着いて〇〇 Keep CALM and 〇〇」というのは、もともとは1930年代に英国で制作された国民へのメッセージポスターの文言であり、第二次世界大戦がはじまる不穏な情勢の中、国内や国民の混乱を危惧して「落ち着いて過ごそう Keep calm and carry on」と呼びかけたのが始まりである。英国で制作された本来のポスター上部には王冠がデザインされている。今回、筆者がニューサウスウェールズで見つけた「落ち着いてナロキソンを持っていよう」のポスターは、歴史的にも英国と深いつながりのあるオーストラリアならではの掲示であり、ポスター上部にデザインされた王冠の中央には、ニューサウスウェールズ州の薬局のニードル・シリンジ・プログラムのマーク（2つの矢印が循環しているようなデザイン）が記され、ユーモラスにも感じられた。

Box2 ナロキソンについてのポスター



写真7 ナロキソン・プログラムに関する2枚のポスター
(撮影 筆者 2023.3.22)

ナロキソン

応急薬であり
オピオイド過剰摂取による影響を抑える

- 無料、身近なニードル・シリンジ・プログラムか薬物依存治療サービスで
- 過剰摂取はすぐには起きないかもしれませんが
- 知ること、あなたの耐性を。特にしばらく使用していなかった場合は
- 複数ドラッグの併用は過剰摂取のリスクが高くなります

ナロキシンの入手は
電話 0417 *** **

(写真7右側ポスターより筆者訳)

2. ピアサポート

ハーム・リダクション・アプローチにおいて、当事者団体の果たす役割は大きい。孤立感を抱いているかもしれないドラッグユーザーが、一人じゃないと感じられるためにも、また、医療機関へ行くことに抵抗がある人々のためにも、ニードル・シリンジ・プログラムがピアサポートによって提供されることは意義がある[20]。ニューサウスウェールズ州にある当事者団体 NUAA（ニューサウスウェールズ・ユーズーズ・エイズ協会 NSW Users and AIDS Association）では、匿名で相談できるピアサポートを平日・日中に実施している[21]。これは、「1800 ピアライン 1800-PeerLine」というドラッグユーザーによる電話相談であり[7]、冒頭の数字の意味は、相談窓口の番号がフリーダイヤル 1800 で始まるためと思われる。ピアラインでは、オピオイド治療を受けている人への支援や注射器を使用したドラッグを使う際の害を減らすための助言やナロキソンが入手できる場所の情報提供など当事者視点でのサポートを提供している[22]。

当事者団体 NUAA によるニードル・シリンジ・プログラムでは、フィットバックはもちろんのこと、バラ用具（例えば、27G や 29G 針付き 0.5ml シリンジ、1ml シリンジ、21G グリーン針、18G ピンク針、消毒用アルコール綿、注射用水、廃棄瓶など）も各種準備されている。どれも「\$ 0.00」と表示されており無料提供されている[23]。また、物資を提供するだけでなく、ピアサポートによる教育も行われている。しかも、具体的でわかりやすく、看護専門職の教育課程で取り扱われる内容も含まれている[24]。たとえば、注射器やドラッグに触れる前に手洗いをすることや正しい手洗いの仕方、ドラッグの保管場所に関する留意事項、安全な筋肉注射の部位や確実な筋肉内への注射の方法、静脈注射の際の注意事項、血管を破らずに適切な注射を行う方法などである[25]。その他、ドラッグの過剰摂取のリスクやオピオイドの過剰摂取時の症状に関する知識の提供や不意な過剰摂取を避ける方法、過剰摂取による中毒症状があった場合のナロキソンの投与方法など、ドラッグによる健康被害の予防や低減のための実生活に即した教育が行われている[26]。また、注射器を所持することについての法的な情報も提供しており、ニードル・シリンジ・プログラムによって提供された注射針やシリンジなどを所持することは問題ないが、それ以外のルート（友人等）から入手したものを所持することは違法であると説明している。使用済の注射器の所持についても同様であるが、廃棄瓶や蓋つきのボトルに入れて、針刺し事故等の二次被害が生じないようにと注意を呼びかけている。

さらに、ドラッグユーザーへのスティグマを最小限にするための活動も行っており、医療従事者向けの研修では、ドラッグユーザーへのスティグマを払拭するための講義を担当している[13]。

おわりに

本稿では、オーストラリアにおけるドラッグに関連した害の予防と最小化を目指したドラッグ・ストラテジーの3つの柱を紹介した。そして、ドラッグ・ストラテジーの3本柱の1つであるハーム・リダクションに焦点を当て、ニューサウスウェールズ州におけるニードル・シリンジ・プログラムの実際について、写真を示しながら報告した。また、ドラッグユーザーに関するスティグマ最小化への取り組みやドラッグユーザーの文化的背景やトラウマに配慮したケアについても触れた。さらに、ニューサウスウェールズの当事者団体 NUAA が提供するニードル・シリンジ・プログラムや電話相談、ドラッグに関連した害を最小限にするためのピアによる教育とその具体的で実生活に即した内容についても報告した。これらの殆どは、日本には未だない施策あるいは殆ど実施されていないサービスであり、日本における今後のハーム・リダクションの在り方等を検討する上で、参考になる情報であると考えられる。またテイク・ホーム・ナロキソンは、オーストラリアにおいて、2022年7月から導入された施策であり、今後、ハーム・リダクションの日本への導入を検討する際には、これらの展開の成り行きと成果についても、注視していく必要があると考えられる。

謝辞

豪州行きについては宮城大学の国際交流・留学生センター長である教授川島滋和先生のご理解・ご協力をいただいたことで実現することができました。心より感謝申し上げます。また、現地病院への視察訪問について、その調整と案内をしてくださりました Southern Cross University の Ms. Saffron Bond にお礼申し上げます。そして、視察訪問の時間が確保できるように配慮していただき、視察内容の執筆を勧め励ましてくれました宮城大学基盤教育群の教授曾根洋明先生に深謝いたします。

なお本稿は、JSPS 科研費 JP19K11274 の助成を受けて行われた研究の一部である。

文献

1. 高野歩, 依存症治療の現在 日本におけるハームリダクションの展開に向けて. 精神医療, 2022(6): p. 71-78.
2. 徐淑子, ハームリダクション. 日本保健医療行動科学会雑誌, 2020. 35(1): p. 72-77.

3. Department of Health, *National Drug Strategy 2017-2026*. Commonwealth of Australia, 2017.
4. WHO, *WHO Guide to starting and managing needle and syringe programmes*. 2007.
5. Harm Reduction International, *THE GLOBAL STATE OF HARM REDUCTION 2022*. 2023.
6. 松本俊彦, ハームリダクションに依拠した薬物使用者の支援. 公衆衛生, 2020. **84**(12): p. 801-806.
7. NSW Ministry of Health, *NSW Needle and Syringe Program Guideline*. 2023.
8. National Centre in HIV Epidemiology and Clinical Research, *Australian NSP Survey National Data Report 2005 – 2009*. National Centre in HIV Epidemiology and Clinical Research, 2010.
9. Christina Cho, *COMMUNITY PHARMACY & THE NEEDLE SYRINGE PROGRAM (NSP)*, in *Harm Minimisation Workshop – Sydney (15th November 2018)*. 2018.
10. NSW Ministry of Health, *NSW Pharmacy Needle and Syringe Program Resource Manual*. 2022.
11. Islam, M.M., K.M. Conigrave, and T. Stern, *Staff Perceptions of Syringe Dispensing Machines in Australia: A Pilot Study*. Substance Use & Misuse, 2009. **44**(4): p. 490-501.
12. Johnston, S., *Barriers to Successful Programs-Overcoming the Stigma of Needle Syringe Use*. Harm Minimisation Workshop – Ballina (23rd May 2018), 2018.
13. Harrod, M.E., *Harm Minimisation Sydney - NUAA*. Harm Minimisation Workshop – Sydney (20th March 2018), 2018.
14. Drug and Alcohol Multicultur Alcohol Multicultural Education Centre, *CALD Communities, Stigma and Discrimination*. Harm Minimisation Workshop – Sydney (20th March 2018), 2018.
15. DAMEC. *The Drug and Alcohol Multicultural Education Centre*. 2018. [cited 2023/05/01]; Available from: <https://www.damec.org.au/index.php>.
16. NSW Health. *Take home naloxone program*. 2022. [cited 2023/05/01]; Available from: <https://www.health.nsw.gov.au/aod/programs/Pages/naloxone.aspx>.
17. the University of Queensland, *valuation of the Pharmaceutical Benefits Scheme subsidised take home naloxone pilot*. Institute for Social Science Research, 2022.
18. Penington Institute, *Australia's Annual Overdose Report 2021*. 2021: Melbourne.
19. Gilliver, R., *Naloxone Developments*, in *Harm Minimisation Workshop – Sydney (15th November 2018)*. 2018.
20. NUAA, *NUAA Strategic Plan 2020 - 24*. NSW Users and AIDS Association, 2020.
21. NSW Users and AIDS Association. *Peer Line*. [cited 2023/05/02]; Available from: <https://nuaa.org.au/peerline>.
22. NUAA, *NUAA Annual Report 2021 - 22*. NSW Users and AIDS Association, 2022.
23. NUAA. *NUAA NSP Equipment*. 2023. [cited 2023/05/22]; Available from: <https://shop.nuaa.org.au/>.
24. NSW Users and AIDS Association. *Safer Using*. User's News [cited 2023/05/22]; Available from: <https://www.usersnews.com.au/safer-using>.
25. Gulliver McLean and Leah McLeod, *Users News Issue #95*. 2020: NUAA.
26. Gulliver McLean and Leah McLeod, *User's News Issue #97*. 2021: NUAA.